

貿易の重力モデル：シミュレーションと地域の 特殊性

伊藤 岳 (富山大学)

2017年10月

一般に、国際貿易の実証研究には適切なデータの取得とその整理・操作 (data tidying), および分析手法が必要になる。本報告では、国家間の貿易量は両国の経済規模に比例し、両国間の距離に反比例するという、いわゆる貿易の重力モデル (gravity model, Tinbergen 1962) と北東アジア諸国の国際貿易に着目し、分析事例を提示する。その中で、本報告は次の点に着目する。第1に、国際貿易の長期的な動向を把握可能なデータセットとその概観を提示する。第2に、複数考えられるモデルの特定と推定法 (たとえば、対数線形 OLS とポワソン擬似最尤推定) といった実証分析に伴う選択が、推定結果に与える影響を明らかにする。第3に、同じく複数考えられるデータセットの選択や欠測値処理の方法が、推定結果に与える影響を明らかにする。第2, 第3の点を検討する上では、経験的なデータの解析に加えて、簡略なシミュレーションを提示する。第4に、以上の作業を踏まえつつ、北東アジア諸国の国際貿易の特殊性の有無とその特徴を、実証的に明らかにする。